

「総合的な学習の事例と考察」

伊丹市立北中学校 教諭 升井 竜雄

1 はじめに

(1)研究の概要

昨年度は、「横断的、総合的な学習とは何か」について、教育史の変遷をたどりながら言葉の定義を明確にし、総合的な学習のあり方を模索した。

本年度は次の2つの柱で研究員講座を進めた。1つは先進校の総合的な学習の取り組みについての考察と各校の情報交換。2つ目は、研究員が個人研究を実践し、経過報告をしあつた。

(2)研究のねらい

ア 各校でスタートし始めた総合的な学習について情報交換し、先進校の取り組みを考察することで効果的な実践を模索する。

イ 生徒と同じ立場で個人研究をすることでネットワークを広げるとともに企画から実践までのアプローチを体験し、生徒への支援のあり方を探る。

2 事例紹介「グローバルタイム」

～伊丹市立北中学校の実践より～

(1)概要

まず自校の総合的な学習の取り組みを紹介したいと思う。

北中学校では総合的な学習の時間をグローバルタイムと名付け、平成9年度より「体験を重視した総合的な学習を通して表現力を高める教育活動を創造する」という主題で取り組んでいる。テーマは1年生『環境』、2年生『福祉』、3年生『国際理解』、全学年共通『情報活用』とし、学年毎と3学年共通のテーマを設定した。また、生徒個々の興味・関心に基づき、クラスを解体して希望により学習グループを作っ

た。そして、生徒が自らすすんで積極的に学べる機会を多く作るため、学年テーマはさらに次のように5グループに分け、学年の教師各2名が担当となって支援した。

(各学年の配当時間は、35時間)



1年生は「小さな芽を育てよう！私たちの未来のために」という学年テーマを設定し、調べ学習から表現・創作活動への工夫をねらいとし、教師の才能を活動に生かすことをめざし、次のようにグループに分かれ活動した。

・自然・絵・癒し』

人と自然の博物館での調べ学習を絵画制作することで表現を試みた。

・劇団グロービー』

ゴミ問題の演劇見学・六甲新エネルギー実験センターでの学習を紙芝居や演劇で発表した。

・『レインボープラン』

家庭の生ゴミでEM堆肥を作り、キュウリを栽培し、サンドイッチパーティを催した。

・『水・ウォーター』

河川の水質調査・廃油石鹼作り・千僧浄水場・原田処理場などを見学し、冊子にまとめた。

・『メダカの学校は今』

初谷川や駄六川の水質調査と自然観察を行い、合唱で川の自然保護を呼びかけた。

2年生のテーマ「福祉」では、「伊丹市を住みよい町にするためには」という課題に沿って様々な立場から切り込んで考えるように次の各グループに別れた。



・『年の差なんて～心で語ろう～』

特別養護老人ホームで、シーツメイキングや折り紙など、老人との交流をとおして体験した活動を演劇でアピールした。

・『以心伝心』

伊丹市広報を朗読し郵送している、ボランティアグループ「声」との交流や、アイマスクの体験を行い、朗読で視覚障害者の福祉に対する実践を発表した。

・『BODY LANGUAGE』

町の音調査や、音無ビデオの体験、そしてボランティアグループ「小指の会」との交流を通し、ノートイク、要約筆記、手話などを体験し発表会では要約筆記により司会者の通訳などに挑戦した。

・『車椅子で歩いてみれば』

ボランティア団体の「ドリームポップコーン」や「楠の会」と交流し、車椅子でのバスケットや、ポッチャ、ゴルフ、ダンスを体験した。車椅子での校区内巡りを体験し活動を演劇にすることで身体障害者福祉を呼びかけた。



・『世界の子供たち』

「国際エンゼル教会」へ訪問し学習したことをもとに「AAA」(Asia&Africa Actions)を通じて、Tシャツとピアニカを集めケニヤに送ったり、SCJ(Save the Children Japan)にテレフォンカードなどを送った。また、神戸のフリーマーケットに参加し5万円以上の収益金を得、寄付した。



3年生のテーマ「国際理解」は、異文化理解から始まるといわれる。そして、そのためには、比較対象となる自国の文化を理解することが必要である。そのため、昨年度までの外国文化の調査研究という活動方針を見直し、日本に焦点を絞ることにした。つまり様々な角度から日本を見て、交流することで国際理解を深める方針に方向修正し、次の各グループに分かれた。

・『日本の食』

日本の食文化を通じて他国の文化への共感と理解を深めるため、太鼓亭(うどんのチェーン店)の職人を講師に招き、うどんや日本食について研究し実演した。

・『日本の遊び』

折り紙や竹細工など日本の遊びを体験し、遊びという視点から日本文化の特徴や外国との関わりを学んだ。

・『日本の伝統的な文化』

日本の伝統的な文化を理解するため、剣道や空手など武道の起源を探ったり、茶道や薪能など見学した。

・『外国からみた日本・インタビュー』

関西国際空港や韓国民団、そして県立伊丹高校朝鮮文化研究会などに出かけインタビューしたり、在日オーストラリア人宅へ訪問し交流した。



・『外国からみた日本・メール交換』

7カ国の子供達とインターネットを使った意見交換を行い、ホームページを作成して活動内容を紹介した。

各学年の5グループはさらに生徒3~5人のグループに分かれて、課題を設定して活動するように仕組んでいる。そして、これらの活動はゆとりの時間を利用し、本年度は年間35時間で行った。そして、地域のボランティア団体や、市の施設などと交流することで、校外へ出、「今」「ここ」にある「現実」の課題と対面することで、教室の学びを変革することを目指した。

このようにして調査・体験したことは、発表会を通して「知の共有化」をはかった。発表会では表現方法を工夫し、他のグループと比較することで、自己の活動を見直し、実践力すなわち生きる力を確認しあっ

た。



(2)成果

設定したテーマは全て「相手の立場でものごとを考える。」という点で共通している。学年があがるにつれて、「自分の狭い価値観で判断しては理解が深まらない。」という感覚が芽生え、より多角的な視野で課題をリサーチする力が育ち、生徒同士が調査方法を建設的に影響しあえたといえる。

また、教師側の積極的なはたらきかけにより、学校外の人材を大幅に活用し、生徒達はこれまでの教科学習や学活・道徳などの時間にはできなかったことを体験することができた。生徒にとっては体験して、初めて知ったことも少なくないだろう。

表現力の育成については、教師の評価に戸惑いが感じられたが、演劇・群読・合唱・地上絵・朗読・点字・手話・新聞・折り紙やカルタなどの遊び・ワークショップ・ステージ発表・電子メール・掲示物等々、多様な表現方法を見いだしたことは十分評価に値するだろう。

(3)課題

テーマ設定は生徒のアンケート希望によって設定されたが、個人がグループごとの活動に集約され、個々の生徒の活動の場が少なくなったことは否めない。また、教師が方向付けをしてしまい、本当の意味での主体的な活動ができなかったという反省もあり、今後どのように個々の生徒に関わる

べきかという課題が残された。

時間設定については、生徒の意識が高まる前に体験学習を行ったり、逆に意識が高まってきてからは、発表準備に時間を取られて体験学習ができなかったりと、時間配分には課題を残した。

また、学年ごとに1つのテーマを進めるということについては、「総合的な学習の時間」を今後3年間で100時間まで増やしていくのであれば、再考する必要があるだろう。新教育課程では、総合的な学習の時間と選択教科の配当時間がいずれも「~」で示してあるので、両者のねらいを明確にした上で、バランスよく配分すべきであろう。

3 グループ事例「外国から見た日本」 ～E-Mail・掲示板・テレビ会議による 7カ国との交流～

(1)概要

先に述べた北中学校の実践の中より「国際理解」をテーマとした3年生の1グループ「外国から見た日本」グループの事例を紹介する。

ア 活動の経過

1年生時。コンピューター室の使用モラルを徹底させ、ワープロなどの文章入力の技能を養った。2年生時。グローバルタイムで調査のためのインターネット利用させたり、国語科の授業中に意味調べをCDで行った。

このように、入学時より3年間を見通してコンピューターの利用技術を育成し、それをもとに3年生での活動を開始した。

グループ人数 3年生 42人。担当教師は国語科と数学科の2人。以下、今年度の活動を時系列に沿って紹介する。

5月。インターネットやメールの仕組みについて2時間講義するとともに、メールによる国際交流するためのノウハウや外国の学校紹介を総合教育センターに依頼した。

6月。イントラネットによって友達同士でレスの意味やレスの付け方、メールの常識やモラルについて学習し、メール体験を2時間程度行った。

7月。GOOのサイトで各生徒にフリーメールのアドレスを取得させ、パスワードを設定し、友達同士インターネットでメール交換を体験した。

夏休み。外国人に向けて行う日本に関する質問を出し合い、300以上の質問が集まった。また、総合教育センターからの紹介で民間団体である国際交流事業支援組織「テレクラスジャパン」から交流のノウハウについて支援を受けた。その結果、1対1のメール交換では相手が見えないし混乱を招くおそれがあるので、「TELECLASS WEB BOARD FOR ITAMI PROJECT」というサイトの中に7カ国との交流掲示板を用意していただいた。7カ国は大韓民国、オーストラリア、イスラエル、ロシア、南アフリカ共和国、アルゼンチン、USAハワイである。



9月。グループを6人ずつ7つに分け、各グループで300以上集まった質問を30程度に絞り、カテゴリー分けを行った。また、英訳担当のメンバーを決め、質問を英語に訳した。主な質問のカテゴリーは次の通りである。日本の印象、学校について、文化生活、国際問題、スポーツ、将来について、である。

10月。質問に対する7カ国からの返答

を日本語に訳し、日本と外国を比較し、グループの活動をホームページにまとめる発表準備を行った。



11月。ハワイ・オーストラリア・大韓民国の生徒とテレビ電話回線によってテレビ会議を行い、交流や意見交換を行った。ただし、大韓民国については相手校にテレビ電話回線がなかったため、インターネットの回線を使ってネットミーティングを行った。具体的な交流内容は、相互の自己紹介とパワーポイントによる写真画像を使った日本文化の「YES OR NOクイズ」である。

12月。ホームページの手直しと活動のまとめや反省を出し合った。

(2)問題点

メールでの交流は、日にちや時間をあけず、意見をやりとりすることが醍醐味である。従って、毎日掲示板を見て、レスを返すのが望ましいのだが、クラスを解体してグループ編成したため、通常の時間割の中で授業代替できないなどの理由で、相手とダイレクトに交流することが難しかった。

また、いつ、どれくらいレスが来るか予想できない上に、全く来ない日もあるので計画を立てにくいという点もある。例えば、30人の外国人クラスが、33の質問に一度にレスを返してきた時、日本語に訳すだけでパニックになったこともあった。

他には生徒の英語力の不足という問題。グループを英語科教師が担当しなかったと

いう反省。質問項目が多かったため、少数の質問に絞って内容を掘り下げていくべきであったことなどが今回の問題点であり、反省である。



(3)成果

本年度の試みは1年間の見通しを持って開始したものではなく、とりあえずチャレンジしてみた活動である。しかし、教師・生徒ともに次に述べる5つの大きな収穫があった。

まず第1に、テレクラスジャパンからの支援を得、教育現場のネットワークが広がったこと。

第2に、インターネットやメールで生徒に情報収集させる際の年間の見通しや注意点、そして支援などのノウハウが得られたこと。

第3に生徒の情報収集力が上がり、インターネットが問題発見のための手段としては有効であると確認できたこと。

第4に、情報をまとめたり、表現や発信する手段の1つとしてホームページの作成が加わったこと。

第5に、テレビ会議ではメールのように文字だけの交流でなく、画像や動画で交流することによって相手の表情を見、声や歌を聞き、交流の実感が味わえたこと。

このように実在の人物を相手にメールモラルの重要性を再確認できたことは非常に意義があったといえる。

要するに、今回の交流で生徒達は多くの人々と交流するノウハウを得ただけでなく、意見交換を通して共感をするとともに感動し、相手の立場を理解して考える実践力が身についたといえる。このような態度は身近な生活の中でも生かされ、生涯を通じた学習の力へとはぐくまれると確信している。

(4)課題

総合的な学習では、個々の生徒がいかに課題を発見できるかが最初のステップとなる。

例えば、学校の校則に対する各国への質問に対して、「ガン、ナイフなどの禁止」という校則があると返答してきた国、「100以上の細かい校則がある」と返答してきた国があった。また、戦争についての質問に対し「今、テロ対策の選挙準備をしている。」と返答してきた国もあった。どの返答を取り上げて也十分に国際理解への切り口となりテーマも深まるものではないだろうか。インターネットやメール交換は、このように課題を多く提供してくれるという点で、非常に有効な手段である。よって、今後の課題として、メールやインターネットに対する生徒の基礎スキルを高めることはいうまでもない。

しかし、豊富に得られた情報の中から、感動とともに課題を発見し、深めていくには、教師からの適切な言葉かけや支援が重要である。これは、情報機器を使用しない他の活動でも同様であろう。

つまり、教師にとっては、適切に支援する力を高めることや、生徒のモチベーションを高めるための言葉かけや関わり方の研究を進めることが、今後の課題であるといえる。そうした教師の支援があってこそ生徒は、多くの情報から感動とともに課題を発見する力が養われ、その後の追究活動の原動力となると考えられる。

(5)インターネット掲示板に掲載した主な33の質問は次の通りである。

Please answer us these questions.

- 1 What are your impressions of Japan ?
- 2 What do you think about Japanese junior high school students ?
- 3 Do you like Japan ?
- 4 Do you know any place name in Japan ?
- 5 Where do you want to go in Japan ?
- 6 What do you know of the Japanese language ?
- 7 Have you ever eaten Japanese food ? What was it ?
- 8 Tell me any famous Japanese persons you know ?
- 9 How do you go to school ?
- 10 What time do you go to school and come home ?
- 11 What subjects do you study in your school ?
- 12 We have a lesson about using wheelchair learning sign language. Do you have lessons about welfare ?
- 13 What kind of annual events do you have in your school ?
- 14 What is the happiest thing at school?
- 15 What things are you proud of in your school ?
- 16 What kind of rule do you have in your school ?
- 17 In your country how many years the compulsory education is ?
- 18 Many Japanese students go studying at Juku (cram school) to pass an entrance examination. How about you ?
- 19 What do you eat for lunch at school ?

- 20 Please tell me about traditional culture in your country ?
- 21 What kind of clothes and native costumes do you wear in your country ?
- 22 What kind of playing is popular now ?
- 23 Where do you play after school ?
- 24 What is the staple food in your country ?
- 25 How much money do you get a month for pocket money ?
- 26 Tell me rules of your family ?
- 27 What kind of festivals are there in your country ?
- 28 What is the popular sports in your country ?
- 29 What is the current news in your country ?
- 30 We have a lesson about the atomic bomb. How about you ?
- 31 What do you think about countries that go to war ?
- 32 What do you want to be in your future ?
- 33 What will you try in the future ?

4 各校の実践情報交換

次に本研究員講座で情報交換された伊丹市各中学校の総合的な学習の取り組みについて紹介する。

(1) 東中

総合的な学習を福祉体験活動とし、1年生は調べ学習、2年生は体験活動、3年生は交流活動という組立で行った。また3年生は生活創造科をもうけ、生徒の身近な生活に関わる内容をいくつかのテーマに分け合科的な授業や活動を試みている。

(2) 西中

学級経営の充実と授業改善とともにSR

(セルフリサーチ学習)を行っている。今年度は6月から土曜日の裁量の時間に年間35時間の予定でSRの時間を設定した。全校テーマを「21世紀に生きる私たち」とし、1年生は「伊丹発見」、2年生は前期「伝える」、後期「Let'Reserch九州」、3年生は「環境・福祉」というように各学年単位で題材を話し合い深めていった。来年度は「生徒につけたい力」を研究課題にする予定である。

(3) 南中

情報教育を基盤とした自己教育力の育成から総合学習へのステップをはかっている。目標は自主的な課題設定力と主体的な判断力。そして情報活用による自己学習力の育成である。1年生では福祉教育を主に10時間程度活動する。2年生は修学旅行の班別研修の方法について取り組む。3年生は修学旅行班別活動の自己研修力をもとに進路調査や体験入学発表会で進路実現に関連させる予定である。

(4) 天中

自己決定力の育成を重視し、学年ごとに「国際理解・福祉、健康・環境」といったテーマを設定している。情報については3年間通して行っている。来年度は6月より35時間にわたって常時行う予定である。今後の重点課題としては多様な学習への支援体制の充実とノウハウの改善を図ること、地域の人材や設備など、教育資源を積極的に活用すること、ポートフォリオにより学習活動および評価の履歴化を押し進めること、家庭地域との関連を強化することを考えている。

(5) 松中

今年度は30時間前後の時間を想定して総合的な学習に取り組んできたが1,2年では福祉体験学習とトライやるを中心に、3年は進路学習を中心に進められた。多少、他の行事や学習と重なり、効果として

は十分でない面もあり、来年度はその点をクリアすることが課題である。

来年度の研究を待たねばならない。

(6) 荒中

体験的な学習を総合的な学習の中心に据え、現1年生から3年間を見通した活動を開始した。年間10時間程度の単元を設定し、1年生は生活・学習の技法の習得、2年生は福祉活動を主に林間学校やトライやると関連した活動、3年生は国際理解を主に修学旅行と職業講話など進路指導に関連した活動を実施する予定である。

(7) 笹中

人権教育と総合的な学習を関連させ、「平和」をメインテーマとしている。テーマは生徒会の専門委員会では3つの内容に分け学年ごとに割り当て、各クラスでは生活班で調査、研究を実施していく計画である。1年生は生活の見直しと問題解決力の育成。2年生は話し合いを通して自己表現の場を広げる。3年生は進路に向けて深くほりさげた課題解決力の育成を目指すものである。

5 総括

今年度、本講座のねらいの1つである「個人研究」は現在も継続中である。その中で研究員が体験した「研究の企画方法」や、「ネットワークの広げ方」は来年度情報交換し、総合的な学習の中での有効な支援のあり方を追究できればと考えている。

また、評価について、研究員自身がポートフォリオを作成しプレゼンテーションしてみるなど生徒の活動をシュミレーションして体験することで具体的な評価の研修を深められるのではないだろうか。

各校でスタートし始めた総合的な学習は試行錯誤の上、各校で特色づけられつつある。しかし、生徒個々の自主的活動に対する適切な支援のあり方や評価の研究は